

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02948

研究課題名(和文) SNS型教職eポートフォリオを活用したオンライン授業実践力と省察力の育成

研究課題名(英文) Promotion of Practical Teaching Competence and Reflective Skills in Online Classes Using SNS-based Teaching e-Portfolio System

研究代表者

谷塚 光典 (Yatsuka, Mitsunori)

信州大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：30323231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、SNS型教職eポートフォリオを活用して教職志望学生にオンライン授業の実践力と省察力を育成する教員養成モデルの構築を目指した。これまで運用してきた教職eポートフォリオシステムの分析から、リフレクションと相互コメントにより、自己課題の明確化、自己の教師像の再考、自らの資質・力量の現状理解に効果があった。これに基づいて新システムの基本設計を行い、クラウド上で運用するシステムを開発した。蓄積された教育臨床経験活動の記録から、ICT活用授業の参観と実践に関する記述を抽出して、教職志望学生はICT活用授業の観察と実践から自己のICT活用指導力を高めていく必要性を認識していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 2010年度入学生から必修化された「教職実践演習」で導入が進んだ履修カルテおよび教職eポートフォリオであるが、教職志望学生の成長や省察力育成に十分活用されていなかった。本研究で提案・開発した、クラウド上で運用されるSNS型教職eポートフォリオを活用しながら学部段階4年間を見通した継続的かつ体系的な指導によって、学生個々の目指す教師像に向けた成長を促進することが可能になった。
2. GIGAスクール構想の実現に加えてコロナ禍を経てオンライン授業に対応できる教員を養成する必要性が急速に高まった。ICT活用授業の観察・実践力を育成する教員養成モデルの構築に向けた示唆を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：We aimed to develop a preservice teacher education model that uses a social networking-based e-portfolio system to promote practical teaching competence and reflective skills for students aspiring to become teachers in online classes. Based on the analysis of conventional teaching e-portfolio systems, we found that reflection and peer-review comments were effective in clarifying personal issues, reconsidering one's image as a teacher, and understanding the current state of one's own skills and competence. Based on these findings, we created the basic design for a new e-portfolio system and developed a cloud-based system. By extracting descriptions of class observations and teaching practices of ICT-based classes from the accumulated records of fieldwork experience, we clarified that preservice teachers recognize the need to improve their own ICT-based teaching competence through the class observation and teaching practice of ICT-based classes.

研究分野：教育学 教師教育 科学教育

キーワード：教師教育 教員養成・教員研修 教育実習 実践的指導力 臨床経験科目 リフレクション 学び続ける教師 ICT活用指導力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の学術的背景

オンライン授業の必要性和教員養成

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業により、小中学校でのオンライン授業が一気に広まった¹⁾。教員養成段階からオンライン授業を観察・実践する必要があるが、通常の授業観察記録の指導方法は確立されている²⁾一方で、オンライン授業をどのような観点から授業観察して記録に残していくか研究は進んでいない。

教師教育における省察の指導方法

コルトハーヘンが提唱する「ALACTモデル」³⁾は、教師の省察を促進するためのサイクルを示している。このモデルに基づくワークブックも出版されており⁴⁾、教員養成段階にも試験的に導入され一定の効果が確認されている⁵⁾。

ポートフォリオ活用による省察力向上

eポートフォリオの活用は数多く事例報告されている⁶⁾。eポートフォリオの利用により学修の振り返りと目標の設定が習慣化されることが明らかになっており⁷⁾、学んで振り返るサイクルを日々の学習活動の中で習慣化させる初等中等教育向けツールも開発されている⁸⁾。

アクセスしやすいSNS (Social Networking Service) 型eポートフォリオの効果

教育クラウドの活用推進に関する報告書⁹⁾では、教育現場におけるクラウド利用のメリットの1つに「時間や場所、端末等の違いを超え、切れ目なく活用」することが挙げられている。スマートフォンの利用に慣れている大学生が、SNS感覚でeポートフォリオ(限定ユーザのみアクセス可能)に教育臨床経験を蓄積してその記録を使って省察することにより、「頻度の高いリフレクションを通して、メタ認知能力の育成が促進される」^{前掲6)}ことが期待される。

(2) 本研究の着想に至った経緯

研究代表者(谷塚)はこれまで、教職eポートフォリオを活用して、教職志望学生に対する省察(リフレクション)の指導方法を研究してきた。

科研費・若手研究(B)(2010-2012)「ティーチング・ポートフォリオを用いた省察の深化による教育実習生の成長の質的分析」(課題番号:22700810)では、学生の教職eポートフォリオの記述を質的分析し、教員養成初期段階の学生が有する教師像の特質を描き出し、基盤研究(C)(2013-2015)「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職eポートフォリオの活用」(課題番号:25350325)では、教職eポートフォリオを活用した目指す教員像の明確化が教職キャリア志向を向上させるといった指導を行った。基盤研究(C)(2016-2018)「協働的問題解決のための省察を促進する教職eポートフォリオシステムの開発」(課題番号:16K01107)では、省察を促進する教職eポートフォリオシステムを設計した。これらの科研費による研究から、教職志望学生への省察指導では、省察の記述の質的分析から省察指導の効果を明らかにし、学生間の相互コメント活動により学生の成長が促進されることも明らかにした。

また、研究分担者(森下)は、教育実習におけるICT活用状況と課題を明らかにした上で、教職志望学生によるオンライン授業を実践していることに加えて、さまざまなオンライン授業観察の可能性を検証している。

これらのことから、本研究課題では、オンライン授業の観察・実践力に着目した。教員養成での体系的なオンライン授業観察・実践力育成モデルを構築し、教育実習を中心に1年次から段階的に育成する。さらに、自己評価・相互評価による省察力の確実な育成に、省察支援ツールとしてのSNS型教職eポートフォリオシステムを利用することを着想した。

(3) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

教師の省察を支援する仕組みとして、教職大学院においてGoogle for Educationのクラウドサービスを利用したポートフォリオが利用されている¹⁰⁾。また、Classi(クラッシー社)、manaba(朝日ネット社)、Feelnote(サマディ社)等の商用のクラウド型教育支援サービスもあり、海外でもeポートフォリオが活用されている¹¹⁾。そこで、本研究課題では、教職課程における観察・実践記録をSNSのように気軽に蓄積して省察する仕組みを構築し、教職志望学生の省察を促すことにした。本研究課題で構築する省察力育成モデルは、教員養成段階だけでなく現職教員研修にも適用でき、体系的・継続的な教職人材育成システムが構築可能になる。

また、学校におけるICTの本格的導入のために、養成・採用・研修等を通じた1人1台端末環境等における教師のICT活用指導力の向上が求められている¹²⁾。GIGAスクール構想にある「緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備」のためにも、オンライン授業の観察・実践力を育成する教員養成・研修体制の構築が急務である。

(引用文献)

- 1) 東洋館出版社編(2020)ポスト・コロナショックの学校で教師が考えておきたいこと。東洋館出版社
- 2) 谷塚光典・安達仁美・藤井善章・森下孟(2015)教員養成初期段階の学生が有する授業参観の視点と事前指導の効果。日本科学教育学会第39回年会論文集, pp.382-383

- 3) F. コルトハーヘン編著(武田信子監訳 2012)教師教育学：理論と実践をつなぐリアリティック・アプローチ．学文社
- 4) 武田信子ほか編著(2016)教員のためのリフレクション・ワークブック：往還する理論と実践．学事出版，p.13
- 5) 森下孟・谷塚光典(2019)SNS型eポートフォリオシステムを活用した教育臨床経験活動の記録蓄積の試み．日本教育工学会研究報告集，JSET19-2, pp.273-280
- 6) 森本康彦(2008)eポートフォリオの理論と実際．教育システム情報学会誌，25(2), pp.245-263
- 7) 青木幸子(2016)教職eポートフォリオの作成による家庭科履修者の就業意志と学修効果の変化．東京家政大学研究紀要1人文社会科学，56, pp.157-166
- 8) 小川美奈恵・森本康彦・鈴木甲子雄(2015)初等中等教育向けeポートフォリオシステム「まなふりくん」の評価．日本教育工学会研究報告集，JSET15-4, pp.57-62
- 9) http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu05_02000129.html (2020.9.5 参照)
- 10) 松本敏・近藤秀人(2016)実習科目「教育実践プロジェクト」の充実に果たす「リフレクション」と「電子ポートフォリオ」の役割．2015年度日本教職大学院協会年報，pp.157-158
- 11) L. Stefani, R. Mason, C. Pegler (2007) *The Educational Potential of e-Portfolios: supporting personal development and reflective learning*. London: Routledge
- 12) 教育再生実行会議 初等中等教育ワーキング・グループ(第1回)配布資料(2020.9.8)

2. 研究の目的

本研究の目的は、オンライン授業の実践力と省察力をSNS型教職eポートフォリオを活用しながら教職志望学生を育成する教員養成モデルの構築である。そこで本研究では、具体的に次の各研究課題に取り組む。

- (1) 最適な教育クラウドを活用したSNS型教職eポートフォリオの開発と運用
- (2) 教職志望学生のオンライン授業の観察記録方法と授業観察力育成方法の開発
- (3) eポートフォリオ上のオンライン授業観察記録を用いた省察力育成方法の開発

3. 研究の方法

- (1) 教師教育及びeポートフォリオに関する文献及び情報の収集と分析
- (2) 臨床経験科目におけるオンライン授業観察・実践の導入
- (3) 臨床経験科目におけるオンライン授業観察・実践の省察指導の実践
- (4) SNS型教職eポートフォリオに最適な教育クラウドシステムの選定
- (5) SNS型教職eポートフォリオの基本設計
- (6) SNS型教職eポートフォリオの自己評価機能の開発
- (7) SNS型教職eポートフォリオの相互評価機能の開発
- (8) 利用者評価に基づくSNS型教職eポートフォリオの機能全体の改修

4. 研究成果

- (1) 教師教育及びeポートフォリオに関する文献及び情報の収集と分析
国内外の教員養成・教師教育，初等・中等教育段階におけるオンライン授業実践，および，教職eポートフォリオに関する文献及び情報を収集・分析し，SNS型eポートフォリオ構築に役立てた。

- (2) 信州大学教育学部における運用してきた教職eポートフォリオの特徴と効果
信州大学教育学部においてこれまで運用してきた教職eポートフォリオ・システムより，教職志望学生の成長を促す教職eポートフォリオの特徴と効果を検討した。Webベースで作成する教職eポートフォリオを活用して，スタンダードとエビデンスに基づくりフレクションと相互コメントを行うことによって，自己課題の明確化，自己の教師像を考え直す機会の設定，自らの資質・力量の現状理解等に効果があることがわかった。今後の課題としては，クラウド型ツールを活用した教職eポートフォリオ・システムの効果的な運用が求められる。

- (3) 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験活動の工夫
2021年度に実施した新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験活動について，実施状況から成果と課題を明らかにした。学部1年次生「教職・カリキュラム論」と学部2年次生「教育臨床演習」のいずれも，感染拡大状況により，臨床経験活動の場所である信州大学教育学部附属学校園(以下，「附属学校園」と)との協議の上，当初の日程や活動内容を大幅に変更することとなったが，体系的な教育実習カリキュラムの構築を意識した工夫をしながら臨床経験活動を実施可能であることがわかった。なお，GIGAスクール構想の実現に向けて，教員養成段階からのICT活用指導力向上を目指し，教育実習でのICT活用授業実践の前段階として，「教職・カリキュラム論」と「教育臨床演習」におけるICT活用授業参観を予定していたが，感染症拡大防止への対応により2021年度は実施できなかった。次年度以降は，ICT活用指導力の体系的な育成と連動させつつ臨床経験活動を充実させる必要があった。そして，2022年度と2023年度は，感染症拡大の状況に配慮しながら，「教職・カリキュラム論」と「教育臨床演習」におけるICT活用授業参観を再開し，大学指定の授業観察記録票を用いて記録をとりながら授業参観する活動を実施した。

(4) 教職志望学生のICT活用指導力育成を目指すSNS型教職eポートフォリオ・システム開発に向けた基本設計

信州大学教育学部においてこれまで運用してきた教職eポートフォリオ・システムの機能に基づいて、新システムの基本設計を行った。使用システム・サーバ、ログイン管理、自己評価、相互評価、ICT活用指導力の記録等について検討し、新システム開発の方向性を明らかにした。また、教育臨床経験活動を行った対象者に開発システムを活用した評価を受けたところ、システムの操作性やレスポンスの早さなど、使用感については一定の肯定的な意見を得ており、システムの安定性が確認できた。それらを踏まえて、自己評価・相互評価(エビデンス蓄積・表示)機能、管理機能等の機能拡張・システム改修を実施した。引き続き、開発したシステムを実際に運用して、附属学校園と連携した臨床経験科目の実践を重ねていくことが求められる。

(5) 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた臨床経験科目「教育臨床演習」実施に向けた学部と附属学校園の連携

臨床経験科目の内容と運営体制の改革を行った学部2年次生対象「教育臨床演習」について、新型コロナウイルス感染症に対応しながら実施した2021年度の状況から、成果と次年度以降の課題を明らかにした。コロナ禍であっても、附属学校と学部が密に連携することにより、臨床経験科目における臨床経験活動は実施可能であり、先輩の教育実習の様子を直接参観することで授業参観の方法や参観記録票の記入方法などを実践的に学ぶことができたことがわかった。一方で、今後の課題として、1年次の臨床経験科目「教職・カリキュラム論」との体系化をより進める必要性が明らかになった。

(6) 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験科目実施に向けた学部と附属学校園の連携

教員養成初期段階の学部1年次生対象の「教職・カリキュラム論」について、新型コロナウイルス感染症に対応しながら実施した2021年度の状況から、成果と次年度以降の課題を明らかにした。コロナ禍のため2020年度は実施できなかった臨床経験活動を、2021年度は附属と学部とで連携しながら実施した。附属担当教員と学部担当教員が連絡を密に取り、必要な事前指導・事後指導を行った。成果として、授業参観記録票を記入しながら授業参観することにより、2年次以降の臨床経験科目に繋げることができたことが挙げられる。一方で、今後の課題としては、教育実習前に履修する臨床経験科目である「教職・カリキュラム論」(1年次)と「教育臨床演習」(2年次)の充実方策を検討・実施することにより、教職志望学生の実践的指導力向上にさらに寄与できる教員養成カリキュラムを構築できることが明らかになった。

(7) SNS型教職eポートフォリオに記述されたICT活用授業参観と実践による省察の特徴

SNS型教職eポートフォリオに蓄積された教育臨床経験活動の記録から、ICT活用授業の参観と実践に関する記述を抽出し、ICT活用授業に対する教職志望学生の省察の特徴を明らかにした。教職志望学生は、ICT活用授業の観察と実践から、自己のICT活用指導力を高めていく必要性を認識していた。今後の課題として、教職eポートフォリオの記述の詳細な分析から、より効果的なICT活用授業観察・実践を構築していく必要性が抽出された。

(8) 教職志望学生が感じているSNS型教職eポートフォリオ作成による自己評価の学修成果

教職志望学生が感じている教職eポートフォリオ作成による学修成果を明らかにした。テキストマイニング分析の結果、学年により、学生たちの臨床経験が深まるに連れて、実感している学修成果が変化していくことが明らかになった。つまり、1年次には授業の観察記録だけで精一杯だった学生たちが、2年次には授業参観を踏まえて自己評価するようになり、3年次の教育実習に繋げていた。4年次には、学修成果を評価観点に基づいて振り返り、自己課題を明確化していた。今後の課題として、実習校種(小学校/中学校/幼稚園/特別支援学校)の違い、教職志望度等についてより詳細な分析を進め、教員養成カリキュラムの体系や各科目における臨床経験活動の編成の改善に繋げることが必要である。

(9) 教職志望学生が感じているSNS型教職eポートフォリオによる相互評価の学修成果

教職志望学生が感じているSNS型教職eポートフォリオによる相互評価の学修成果を明らかにした。テキストマイニング分析の結果、ワードクラウドおよび共起キーワードから、学年によっては当該学年の臨床活動に関する相互コメントから学ぶことが多い傾向もあることがわかった。今後の課題として、実習校種の違いや教職志望度に加えて所属コース(教科等)についても詳細な分析を進めることで、専門性に応じた臨床経験活動のあり方の検討も必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典, 森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教職志望学生のICT活用指導力育成を目指すSNS型教職eポートフォリオ・システム開発に向けた基本設計 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会2022年秋季全国大会（第41回大会）講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 335-336 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 森下孟, 島田英昭, 谷塚光典 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教員養成学部新入生が感じたICT活用の影響や効果の分析 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会2022年秋季全国大会（第41回大会）講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 273-274 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 尾臺美彰, 谷塚光典, 森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた臨床経験科目「教育臨床演習」実施に向けた学部と附属学校園の連携 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 令和4年度日本教育大学協会研究集会発表概要集 | 6. 最初と最後の頁 74-75 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 谷塚光典, 大畑健二, 白鳥勝教, 笠原大弘, 原洋平, 戸塚拓也 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教職の専門性を高度化する教職大学院履修プログラムの指導体制に連携した学校実習科目「教育実践実地研究」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 令和4年度日本教育大学協会研究集会発表概要集 | 6. 最初と最後の頁 54-55 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典, 森下孟 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験科目実施に向けた学部と附属 学校の連携 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 教育実習研究 | 6. 最初と最後の頁 8-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 森下孟, 米川孝宏, 谷塚光典 | 4. 巻 2022(4) |
| 2. 論文標題 教育臨床経験活動記録を蓄積するためのSNS型教職ポートフォリオシステムの設計 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 268-271 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jsetstudy.2022.4_268 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典, 青木一, 藤崎聖也, 大畑健二 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 各種教育機関と連携した教職大学院教育課程の展開 多様な教育課題の解決に資する高度専門職業人を養 成するために | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 2022年度日本教職大学院協会年報 別冊『実践研究成果集』 | 6. 最初と最後の頁 15-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 島田英一郎, 三崎隆, 茅野公穂, 村松浩幸, 谷塚光典 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 実生活で有機的に活用できる資質・能力を育てる科学教育カリキュラムの開発(4) - 算数をベースにした小 学校中学年かがく領域におけるSTEAM教育の実践を事例に - | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本科学教育学会年会論文集 | 6. 最初と最後の頁 507-508 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14935/jssep.46.0_507 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 森下孟・谷塚光典 | 4. 巻 50 |
| 2. 論文標題 SNS型eポートフォリオシステムによる教育臨床経験活動の記録蓄積と振り返りへの効果 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 コンピュータ&エデュケーション | 6. 最初と最後の頁 108-111 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14949/konpyutar iyoukyouiku.50.108 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・伏木久始・宮島新・白鳥勝教・笠原大弘・原洋平・戸塚拓也 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教職大学院生の多様なニーズに対応するプログラム制の導入による学校実習科目「教育実践実地研究」の実習内容の変化 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 令和3年度日本教育大学協会研究集会発表概要集 | 6. 最初と最後の頁 40-41 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 森下孟・栗田瑞樹・谷塚光典 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教員養成学部生の遠隔プログラミング授業実践を通じたオンライン教育実習の試み | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 令和3年度日本教育大学協会研究集会発表概要集 | 6. 最初と最後の頁 77-78 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 信州大学教育学部における教職eポートフォリオの変遷と特徴 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 439-440 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 森下孟・谷塚光典・島田英昭 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教員養成学部入学時におけるICT活用教育に対する信念の調査分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 249-250 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 栗田瑞樹・谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 1人1台端末の活用に向けた教師用研修リーフレットの開発 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 437-438 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験活動の工夫 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2022年春季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 327-328 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 森下孟・谷塚光典・島田英昭 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教員養成学部入学時における教育でのICT機器活用への意識調査 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2022年春季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 275-276 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 下崎高・神生凌我・谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 学習意欲の向上を促すための動画教材への効果的な工夫 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会 2022年春季全国大会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 279-280 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 神生凌我・小泉遥香・堀内蓮太郎・若月陸央・谷塚光典・佐藤和紀・森下孟 | 4. 巻 JSET21-1 |
| 2. 論文標題 オンライン授業を経験してきた教員養成学部生の情報活用の実践力尺度項目間の相関分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 28-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jsetstudy.2021.1_28 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 下崎高・萩原ほのみ・若月陸央・森下孟・谷塚光典・佐藤和紀 | 4. 巻 JSET21-1 |
| 2. 論文標題 オンライン授業を経験してきた教員養成学部生の情報活用能力に関する実態調査 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 172-179 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jsetstudy.2021.1_172 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・大畑健二・戸谷健史・白鳥勝教・尾臺美彰・市川この美 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 学校実習科目「教育実践実地研究」の成果を高めるための附属学校園や公立拠点校との連携の工夫 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 令和5年度日本教育大学協会研究集会発表概要集 | 6. 最初と最後の頁 46-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 森下夏鈴・谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 2023(4) |
| 2. 論文標題 児童生徒の読書量を増やすための読書嫌いの要因分析 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 74-77 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jsetstudy.2023.4_74 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 SNS型教職ポートフォリオに記述されたICT活用授業参観と実践による省察の特徴 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会2024年春季全国大会(第44回大会)講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 253-254 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 森下孟・谷塚光典 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 SNS型教職ポートフォリオシステムの評価と改修 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会2024年春季全国大会(第44回大会)講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 651-652 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 教職志望学生が感じている教職ポートフォリオ作成による学修成果 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 日本教師学学会第15回大会大会要旨集 | 6. 最初と最後の頁 40-41 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 2024 (1) |
| 2. 論文標題 教職志望学生が感じているSNS型教職ポートフォリオによる相互評価の学修成果 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 86-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jsetstudy.2024.1_86 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 栗田瑞樹・谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 一人一台端末の活用に向けた教師用研修モデルの開発 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 信州大学教育学部研究論集 | 6. 最初と最後の頁 229-244 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50928/0002001393 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 下崎高・谷塚光典・森下孟 | 4. 巻 55 |
| 2. 論文標題 学習者の興味・関心を引き出すための非同期型動画教材に施す働きかけの分析 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 コンピュータ&エデュケーション | 6. 最初と最後の頁 45-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14949/konpyutar iyoukyouiku.55.45 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計25件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典, 森下孟 |
| 2. 発表標題 教職志望学生のICT活用指導力育成を目指すSNS型教職eポートフォリオ・システム開発に向けた基本設計 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会2022年秋季全国大会(第41回大会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森下孟, 島田英昭, 谷塚光典 |
| 2. 発表標題 教員養成学部新入生が感じたICT活用の影響や効果の分析 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会2022年秋季全国大会(第41回大会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 尾臺美彰, 谷塚光典, 森下孟 |
| 2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた臨床経験科目「教育臨床演習」実施に向けた学部と附属学校園の連携 |
| 3. 学会等名 令和4年度日本教育大学協会研究集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典, 大畑健二, 白鳥勝教, 笠原大弘, 原洋平, 戸塚拓也 |
| 2. 発表標題 教職の専門性を高度化する教職大学院履修プログラムの指導体制に連携した学校実習科目「教育実践実地研究」 |
| 3. 学会等名 令和4年度日本教育大学協会研究集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷塚光典, 森下孟 |
| 2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験科目実施に向けた学部と附属学校園の連携 |
| 3. 学会等名 日本教育大学協会全国教育実習研究部門第36回研究協議会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 森下孟, 米川孝宏, 谷塚光典 |
| 2. 発表標題 教育臨床経験活動記録を蓄積するためのSNS型教職ポートフォリオシステムの設計 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「教育の情報化ノ一般」 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷塚光典, 青木一, 藤崎聖也, 大畑健二 |
| 2. 発表標題 各種教育機関と連携した教職大学院教育課程の展開 多様な教育課題の解決に資する高度専門職業人を養成するために |
| 3. 学会等名 令和4年度日本教職大学院協会研究大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 島田英一郎, 三崎隆, 茅野公穂, 村松浩幸, 谷塚光典 |
| 2. 発表標題 実生活で有機的に活用できる資質・能力を育てる科学教育カリキュラムの開発(4) - 算数をベースにした小学校中学年かがく領域におけるSTEAM教育の実践を事例に - |
| 3. 学会等名 日本科学教育学会年会第46回年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典・伏木久始・宮島新・白鳥勝教・笠原大弘・原洋平・戸塚拓也 |
| 2. 発表標題 教職大学院生の多様なニーズに対応するプログラム制の導入による学校実習科目「教育実践実地研究」の実習内容の変化 |
| 3. 学会等名 令和3年度日本教育大学協会研究集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森下孟・栗田瑞樹・谷塚光典 |
| 2. 発表標題 教員養成学部生の遠隔プログラミング授業実践を通じたオンライン教育実習の試み |
| 3. 学会等名 令和3年度日本教育大学協会研究集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 信州大学教育学部における教職eポートフォリオの変遷と特徴 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森下孟・谷塚光典・島田英昭 |
| 2. 発表標題 教員養成学部入学時におけるICT活用教育に対する信念の調査分析 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 栗田瑞樹・谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 1人1台端末の活用に向けた教師用研修リーフレットの開発 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験活動の工夫 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2022年春季全国大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 森下孟・谷塚光典・島田英昭 |
| 2. 発表標題 教員養成学部入学時における教育でのICT機器活用への意識調査 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2022年春季全国大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 下崎高・神生凌我・谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 学習意欲の向上を促すための動画教材への効果的な工夫 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2022年春季全国大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 神生凌我・小泉遥香・堀内蓮太郎・若月陸央・谷塚光典・佐藤和紀・森下孟 |
| 2. 発表標題 オンライン授業を経験してきた教員養成学部生の情報活用の実践力尺度項目間の相関分析 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「STEAM教育ノ一般」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 下崎高・萩原ほのみ・若月陸央・森下孟・谷塚光典・佐藤和紀 |
| 2. 発表標題 オンライン授業を経験してきた教員養成学部生の情報活用能力に関する実態調査 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「STEAM教育／一般」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典・大畑健二・戸谷健史・白鳥勝教・尾臺美彰・市川この美 |
| 2. 発表標題 学校実習科目「教育実践実地研究」の成果を高めるための附属学校園や公立拠点校との連携の工夫 |
| 3. 学会等名 令和5年度日本教育大学協会研究集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 森下夏鈴・谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 児童生徒の読書量を増やすための読書嫌いの要因分析 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「学習科学／一般」 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 SNS型教職ポートフォリオに記述されたICT活用授業参観と実践による省察の特徴 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会2024年春季全国大会（第44回大会） |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 森下孟・谷塚光典 |
| 2. 発表標題 SNS型教職ポートフォリオシステムの評価と改修 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会2024年春季全国大会（第44回大会） |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 教職志望学生が感じている教職ポートフォリオ作成による学修成果 |
| 3. 学会等名 日本教師学学会第15回大会 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 教職志望学生が感じているSNS型教職ポートフォリオによる相互評価の学修成果 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「教師研究・授業研究／一般」 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高沼有佳・谷塚光典・森下孟 |
| 2. 発表標題 教員の労働環境の問題が教育実習を終えた教員養成学部生の進路希望に与える影響 |
| 3. 学会等名 日本教育工学会研究会「初年次教育・キャリア教育／一般」 |
| 4. 発表年 2024年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------|---|---------------------------------------|----|
| 研究 分担 者 | 森下 孟 (Morishita Takeshi) (70642528) | 信州大学・学術研究院教育学系・准教授 (13601) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|